懐かしの郡上八幡

「にっぽん途中下車」というルポで、郡上八幡駅が紹介されていた(日本経済新聞 9 月 3 日夕刊)ので切り抜いておいた。写真のように、「郡上おどり」のちょうちんが旅情を誘う長良川鉄道とある。ルポによると、社内のポスターに「お陰さまで 80 周年」、「越美南線は美濃太田－北濃間の全線開業から 80 周年を迎えました」と添え書きされていた。28 年前から第三セクター「長良川鉄道」の経営であるが、地元の人にとっては、おらが鉄道「越美南線」なのである。

「郡上おどり」のちょうちんが旅情を誘う長良川鉄道

国鉄時代の越美南線と郡上八幡には、懐かしい思い出がある。親父が「国鉄マン」であり、飛騨高山から越美南線の深戸駅長に転勤した。高校 1 年であり、斐太高校から郡上高校へと転校した。「転校生」として慣れない高校生活を送った。

深戸は郡上八幡から美濃太田寄りの 2 つ目の小さな駅である。駅隣接の「官舎」に住み、郡上高校へ通学した。なにせ「赤字ローカル線」なので、数時間に 1 本のダイヤであり、乗り遅れると大変である。何度か眠気眼で官舎から飛び出し、列車に飛び乗った。駅長の親父は冷や汗ものだったと思う。前にもレポートに書いたが、高倉健さんの「鉄道員」には到底叶わないが、親父の駅長姿もなかなか恰好よかった。

深戸駅の前には清流長良川が流れている。鮎釣りをする人も多い。親父も近所の人の「指導」のもとに釣りを楽しんでいた。たまに美味しい鮎が食卓に並ぶこともあった。長良川で忘れられないのが、一人で泳いでいたとき（たいして泳げないのだが)、つい深みにはまって溺れそうになったことがある。これで「もう最後（災後）か」と思ったところ、意外に浅く足が岩についた。川の恐ろしさを実感したものだ。

郡上八幡といえば、なんといっても「郡上おどり」である。400 年にわたり城下町・郡上八幡で歌い踊り続けられてきた。7 月中旬から 9 月上旬にかけて、33 夜にわたり繰り広げられ、日本一のロングランの盆踊りといわれる。今年の「おどり納め」は 9 月 6 日である。クライマックスはお盆の「徹夜おどり」であり、多くの踊り手や観光客が訪れる。高校時代に一度だけ「徹夜おどり」に行ったことがある。慣れないこともあり、疲れて途中で帰ってしまったが。

郡上おどりは 10 種類もあるが、なかでも有名なのが「かわさき」である。「郡上の八幡出てゆく時は、雨も降らぬに袖しぼる----」の歌詞だ。大学院時代には、調子はずれながら歌ったものである。歌い終わって、なぜ「雨も降らぬに袖しぼる」のかと、よく問いかけたものだ。ここは映画でも上映された郡上一揆で知られた土地であり、郡上おどりは苦難の歴史を引き継いでいる。また郡上八幡を訪ねてみたい。

（2014 年 9 月 9 日）